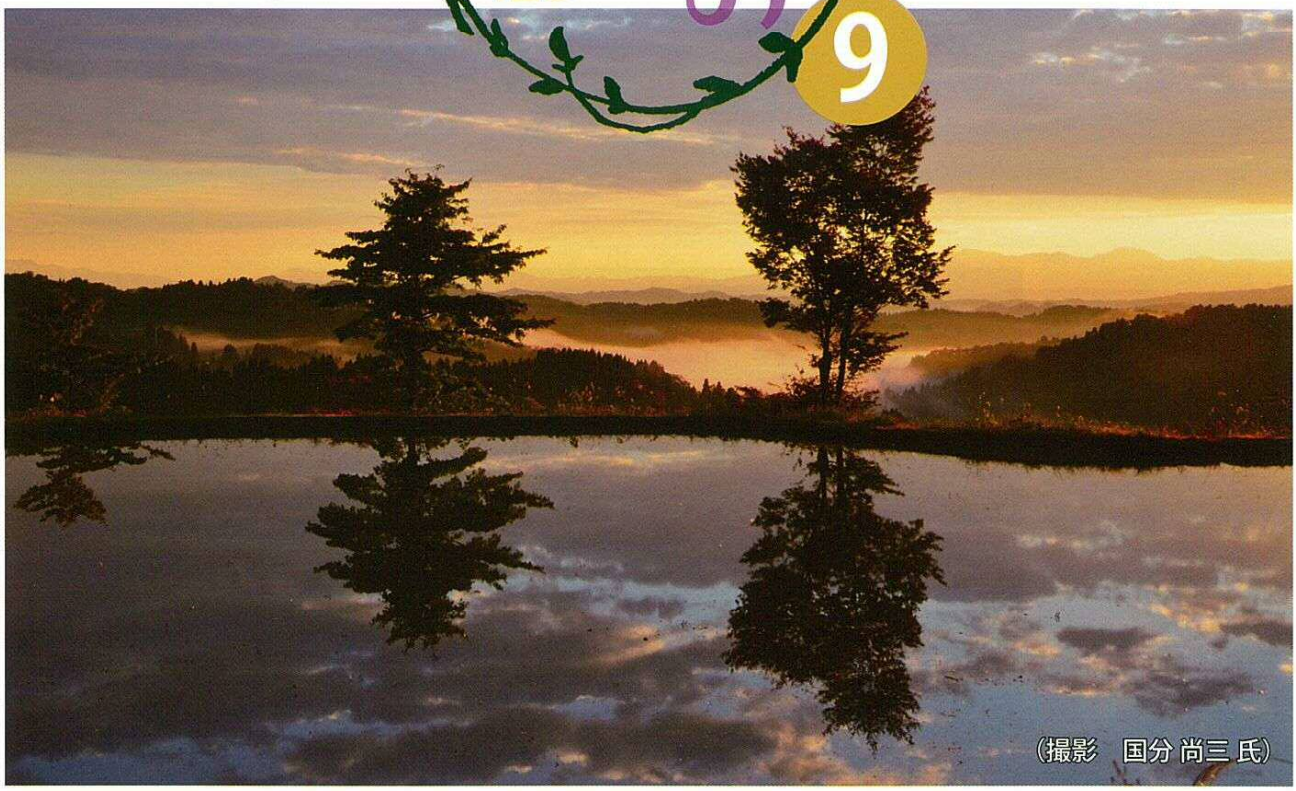
南無阿弥陀仏は
私のいのち

えこお
平成25年
9月号
NO.
428
9

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
http://saitokuji.tobiiro.jp/
発行人 岸本 秀一
印 刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



(撮影 国分 尚三 氏)

生活の中から

九月に入り、酷暑と言われた八月の暑さが一気に和らいできた。この時期になると、「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉をいつも思い起こす。しかし、この頃の若い世代の人たちは、あまり使わないのではないだろうか。

現代では、その若い世代の人が作り出す、「若者の言葉」と言っていいのかわからないが、そのような言葉が次から次へと生まれ、簡単に消えていくような時代である。そのような背景には、その時の関心や流行というものが関係し、その言葉の需要がなければ消えていくというものである。流行語大賞というものがあるが、実際には忘れ去られている言葉も沢山ある。

一時的に流行る言葉と、伝えられてきた言葉との違いというのは、感覚的表現だが、肌で感じるかどうかではないだろうか。それは生活の中から生まれてきた言葉であり、事実が言葉になったのである。

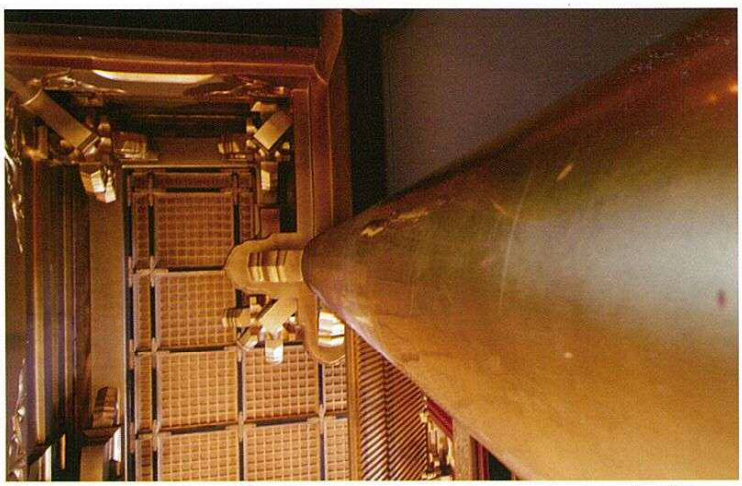
親鸞聖人が教えて下さる言葉となった教えは、私達から離れたものではなく、人間の営み・生活の中から私達の事実を明らかにして下さっているのではないだろうか。親鸞聖人の教えを、どこか生活と切り離して考えてしまうが、実は私達の日常の中から生まれてきた教えの言葉であることを、改めて気付くことである。

正信偈の話㉕

松井憲一

印度西天之論家、中夏日域之高僧、顕大聖興世正意 明如来本誓応機。

（印度、西天の論家、中夏、日域の高僧、大聖興世の正意を顕し、如来の本誓、機に応ぜることを明かす。）



正信偈の前半は、自分で弥陀仏の本願念仏が信じられると思う限り難信であると示して、邪見憍慢の悪衆生のかたくなな執着心から解放されて、本願念仏がいただけるように結ばれました。そして、今回からの後半では、難信をくぐって南無阿弥陀仏の教えが民衆の現実に根づいて、伝えられてきたことの尊さを、代表者の名前をあげて讃えられます。

親鸞聖人は、法然上人のおおせによって、弥陀仏の本願念仏に遇われました。法然上人に出遇い、「弥陀の本願まことにおわしまさば、釈尊の説教、虚言なるべからず。仏説まことにおわしまさば、善導の御釈、虚言したまうべからず。善導の御釈まことならば、法然のおおせ、そらごとならんや。法然のおおせ、まことならば、親鸞がもうすむね、またもってむなしかるべからずそうろうか。（『歎異抄』）」と言われるように、法然上人へと続く本願の歴史、人々の歴史に出遇われました。

本願は、人を目覚めさせ、目覚めた人の生活を通して伝えられます。後半はその伝承をさかのぼって、印度から時代順に高僧の説を述べられて「唯可信斯高僧説（唯斯の高僧の説を信ずべしと）」と終わります。それで、「印度、西天の論家」の「印度」は、インドのことで、「西天」は、中国より西方にあたる天竺（インド）のことです。「論家」は、「論書」を著した方で、智慧深きインドの龍樹菩薩と天親（世親）菩薩の二菩薩です。「中夏、日域の高僧」の「中夏」は、中国のことで、「夏」は、盛んという自分の国を誇る言葉で、「日域」は、日本のことです。「高僧」は、徳高き中国の曇鸞大師・道綽禅師・善導大師のお三方と、日本の源信僧都・源空（法然）上人のお二人です。

親鸞聖人は、この七人の菩薩や高僧方が、「大聖興世の正意」を顕かにしたといわれます。つまり、お釈迦様（大聖）が、この世に出られた（興世）意味は、『大無量寿経』の精神である如来の本願念仏をいただいて、弘めてくださったことにあるといわれます。なかでも、龍樹菩薩・天親菩薩・曇鸞大師は、すべての人々（凡夫・群萌）を救う教えは、本願の念仏のみであるといわれました。また、道綽禅師・善導大師・源信僧都、源空上人は、縁によって何をするかわからない身の助かる法は、本願念仏の道のみといわれます。

それで、「如来の本誓、機に応ぜることを明かす」といわれます。この「如来」は、阿弥陀仏のことで、「本誓」は、いつ（いま）でも、どこ（ここ）でも、だれ（わたし）でも、平等に救いたいと願われた、阿弥陀仏の本願です。そして、その願いが成就しなければ、仏にはならないと誓われたので、「本誓」といいます。その本誓に応答するのが「機」です。機は、それぞれの業縁を生きる現実の人間のことですが、思い通りに生きられないご縁をいただいて、かすかなこころでも教えに関わろうとする人間のことをいいます。教えは、聞こうとする人を待ってはたらきます。阿弥陀仏の本誓は、「邪見憍慢の悪衆生」でしかない身にも応じて、南無阿弥陀仏と頷かせ、感動させてくださるのです。

こうして、「如来の本誓」に、修行に耐えられない民衆とともに身をもって聞き、浄土を願い、書物を著して、独自の領解を示してくださったのが、七人の高僧方のお念仏の伝承であります。

山門の言葉

さるべき業縁のもよおせば
いかなるふるまいもすべし

今月の言葉は『歎異抄』の十三章からいただきました。

この言葉を現代語に訳すると、"人は誰でも、然るべき縁がはたらけば、どんな行いもするものなのだ"という意味になる。人間が自分の頭でああしよう、こうしようと、どれだけ考えたところで、何かの原因と条件(縁)が揃えば、自力の思いを超えて人は何をするか分からない、ということである。

然るべき縁、業縁ということであるが、長い長い人間の歴史の中から出てきたことで、それがいつのまにか私の身に付いているのである。朝起きて、顔を洗うのも業縁だと言われる。実は私たちは、自分の考えだけではなく、人や物、様々な縁を頂いて生きているのである。当たり前にしていることも実は全て自分一人の力ではない。先日私は結婚したのだが、これも個人的な意志だけではなく、人々の営みの歴史から出てきたことなのであると教えられる。

しかし、それを全て縁のせいにしてしまえと言うのではなく、それが自分なのだということであろう。テレビで犯罪のニュースを見て、自分だけはそんなことをするはずがないと考えることは自分が自分と約束しているだけの、勝手な発想でしかないのである。

自分の考えが間違っていると思って罪を犯す人は少ないのではないだろうか。その一番頼りにしている自分の考えが、条件(縁)によってころころ変わり、置かれた状況によって何をするか判らない。

今月の言葉はは他人事ではなく、私たちの姿が言い当てられている言葉である。私が見失っている自己を明らかにするはたらきを仏様と言い表してきたのである。

(仲井　真裕　記)

おつとめ

仏説阿弥陀経②

阿弥陀仏の浄土を極楽という言葉で表され、その国土に生まれる衆生は、「もろもろの苦あることなし」(無有衆苦)といわれます。「苦あることなし」とは、苦がなくなるのではなく、苦が苦にならないということです。

私たちは仏の救済に対して、苦悩する現実が解決されることを望んでしまいます。念仏をとなえて阿弥陀仏にたすけられるということも、私の要求が叶うことが前提になってしまいます。しかし経典に説かれる阿弥陀仏のはたらきとは、罪深い我が身(凡夫)に目覚めさせ、煩悩のために六道を流転する人生を、本願によって超えさせようとするのです。

浄土の楽とは、我々の考えている楽しみや苦労知らずという意味ではなく、人間の諸楽を超えた仏の智慧によって、迷い多き人生に喜びが見出されることなのです。

(木村　専正　記)

なんで？20「お仏飯（ぶっぱん）」

毎朝、仏壇に供えるご飯のことをお仏飯といいます。炊きたてのご飯を仏供器（ぶくき）に盛り、まず一番に仏前にお供えします。ご飯の盛り方は、円錐（えんすい）型ではなく、円筒型に盛ります。

朝供えたお仏飯は、お参りが終わった後下げて、家族みんなでいただくことが、昔からの習慣とされています。最近は、朝にご飯よりパンを主食としている家庭が増えています。その場合はご飯の代わりにパンをお供えしてもかまいません。

大事なのは、毎朝仏壇にお供えをし、お参りをすることです。そのことを通して、自分が日々、数え切れない命に支えられて、生かされている事実を再確認させていただきます。

お仏飯をお供えすることは、そういうことに気づかせる、仏のはたらきを表しているのでしょう。

（蓮井 邦宗 記）

掲示板 平成25年9月

7日(土)	午後2時	**評議員会定例役員会**
	午後3時半	**混声合唱団「エコー」練習**
11日(水)	午後4時	**総代会**
13日(金)	午後1時半	**教行信証「信巻」に聞く(第90回)** 講師　宗 正元師
14日(土)	午後6時	**同行会「正信偈の教え」に聞く** 法話　木村主任
17日(火)	午後7時	**仏教青年会「歎異抄」に聞く** 講師　宗 正元師
18日(水)	午後1時	**婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く**
20日(金)～26日(木)		**秋季彼岸会**
22日(日)	午後1時半	**秋季永代経法要** 法話　岸本住職　仲井 真裕
28日(土)	午後1時半	**定例聞法会**
	午後3時半	**混声合唱団「エコー」練習**
29日(日)	午後2時	**中央ブロック会総会・聞法会** (本堂)

日誌

7月23日	総代会
7月27日	仲井真裕君・木村由香梨さん 披露宴(滋賀県)
7月27日・28日	宗祖忌
7月31日	婦人会聞法会　本山リーフレットに聞く 「照らされて見えてくる」
8月1日～10日	岸本住職　本山勤式当番勤務
8月3日	混声合唱団「エコー」練習
8月7日・8日	中興忌
8月13日～16日	盂蘭盆会
8月19日	教区研修会(品川・照明寺) 住職・坊守・木村主任参加

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせて頂きます。

滋賀県　専念寺 様
千葉市　南部 秀満 様
千葉市　川島 弘 様
大和市　齋藤 祐三 様
さいたま市　原島 柊一 様
長野県　山上 正子 様

編集後記

夏休み最後の日曜日（8月25日）、西徳寺の境内で恒例の仏教青年会主催「バーベキュー大会」が開催されました。20年以上も継続している夏の風物詩ともいえる行事で、老若男女を問わず大勢の参加者で賑わいました。

本堂でお勤めの後、岸本住職から子供たちにも伝わる法話があり、その後は焼き肉を食べながら花火やアトラクションなど、盛り沢山の内容に大人から子供まで喜んでいただきました。尚、集まった会費は福島県の自治体を通じて義援金として送金させていただきました。ご協力、ありがとうございました。

（主任 木村 記）

西徳寺ホームページアドレス：
HP http://saitokuji.tobiiro.jp/
ゆうちょ銀行お振り込み口座　00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
（メールでも結構です）
saitokuji@ce.wakwak.com